

紙さん 肥田さん ホットトーク

## 診療は対等な

## 人間関係で行う

肥田 普通、私たちが困ることは、一つはお金の問題、二つは体と心の自由にかかわる人権の問題、三つは病気や医療の問題で命にかかわりませんね。

ほくらが医者になったころは、患者さんに「いかがでしたか」と聞くと判でついたように「おかげさまで」と言っています。うまくいっていると思うが、どうも様子がおかしい。診療経験を積むうちに患者さんは本当にいいときは顔中で笑って報告するし、よくできました。

「本当は？」と聞くと、「そう聞かれれば実は」と話し始

めます。患者は医師を目上の人間と扱い、何でも言える対等な人間関係にはなかなか

してもらえません。そんなことから私は「医療は患者のためのもので」「診療は対等な人間関係で行うべきである」という考えで民医連（全日本民主医療機関連合会）運動を始めたのです。

紙 私も、体の調子が悪かったりすると、北海道の民医連、勤医協の先生にお世話になってきました。平和の運動と医療を一体にやっておられ、素晴らしいと思ってきました。地域の人たちと一緒に

なっていて自分たちの健康を自分たちで守ろうというのにはほかにないと思います。特に最近では、医療でもうけに走るとか、そういう傾向にあるなかで貴重だと思います。

<下>

参院議員 紙智子さん 医師 肥田舜太郎さん

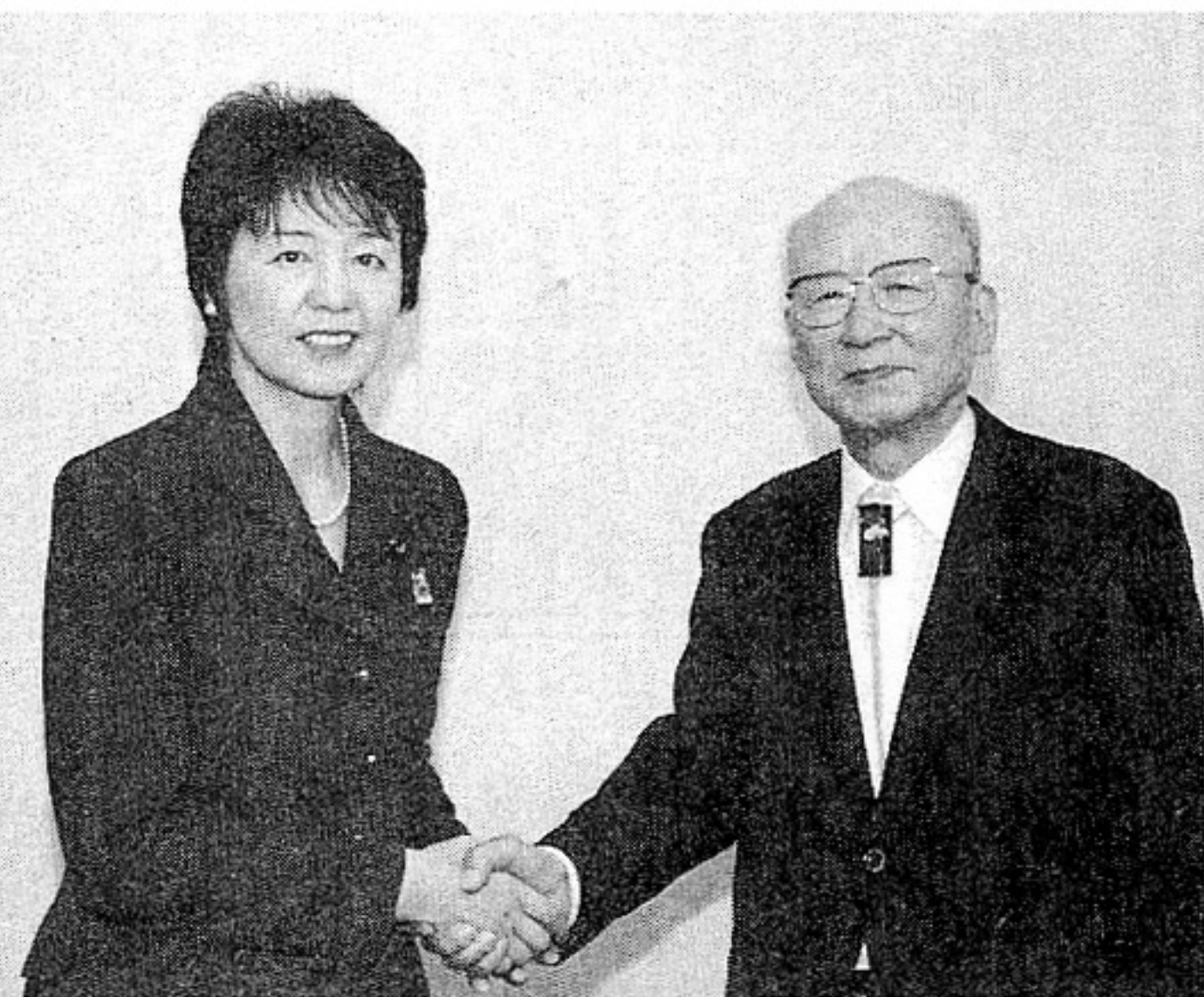
# 医療は患者のためのもの 肥田

肥田 アメリカは資本主義の権化ですからすべてがお金です。医療保険も民営で、貧しい国民が入れるのはありません。心臓発作で保険証を見

本国の話です。

「自立自助」が  
当たり前前の政府

紙 お金のない人は受けら



対談を終え、握手をかわす紙智子参院議員（左）と肥田舜太郎氏

て「このランクでは手術ができません」ということですね。きかない」という。日本のお手

安倍さんの内閣もそうだ

し、小泉さんもそうでしたが、「自立自助」、自分の力で立ちなさい、それが当然なんだ。障害者自立支援法案の審議で、私が「ええっ」と思ったのは、「これからの時代は契約だ」という厚労省の答弁です。福祉というのはサービスを受けるための契約なんだというのです。

肥田 「契約」という考え方を言葉でいうようになってきましたね、役人が。昔は絶対そんなことはいえなかったです。人間の命の問題は契約で片付く問題じゃない。

紙 「新自由主義」といいますけれど、国は競争をおおるのが当たり前という考えですから、格差が生まれるのは当然なんだとなります。一方、それにしただって現実はありません。おかしいと多くの人が気づき始めている。

肥田 もっとアメリカが入

ってきた自由にも金もうけができるように、あらゆる制限をなくそうとしています。格差は当然となると結局は、競争で負けたやつはあきらめろ、悔しければ負けるな、そういう教育を小学校でもやってくるんだと思います。それで教育基本法を変えて、まったく逆立ちした教育に変えていくわけですね。

紙 憲法改悪の動きに、大きな範囲で国民の運動を広げないと取り返しがつかないことになるんじゃないか、という危機感が広がっています。どんどん運動を大きくしてはと思っています。

肥田 私も九条守れと訴えて回っています。国民は急いで「改正しろ」とは求めていません。アメリカや安倍政権は改憲に執念をもちやして、九条を守れと署名を広げていく頑張りが必要です。

草の根に、もっともって共産党の人が増えてほしいですね。何人かが一生懸命になるのではなく、たくさんの方が少しずつ力をだして大きな力にすることが大事です。

# 格差を広げる安倍内閣 紙

紙 ありがとうございます（おわり）